



GYEONGGI-DO

## GYEONGGI NEWS

Gyeonggi Province E-newsletter

December 2022

# 去年、韓国国内旅行客は京畿道を 5千340万回訪問。3年連続韓国最多を記録

去年、韓国国内旅行客は京畿道を5千340万回訪問。3年連続韓国最多を記録

韓国文化観光研究院の「2021年国民旅行調査」の結果、韓国国内旅行先の全国1位は京畿道

- 日帰り旅行先で全国1位、1人平均国内旅行回数で全国1位など人気旅行先であることを証明

京畿ドウルレ道(森の道)、京畿海など、  
京畿道でしか見られない国民的な観光名所造成

去年、韓国人の韓国国内旅行現況を分析した結果、京畿道を5千340万回訪問して3年連続韓国最多であったことが分かった。

京畿道が、文化体育観光部の傘下にある韓国文化観光研究院が11月13日に公開した「2021年国民旅行調査」を再分析した結果、去年韓国人が京畿道を訪問した国内旅行回数は5千340万回で、韓国で最も多かった。2位の江原道(2千542万2千回)の2倍以上だ。2020年の1位は京畿道の4千549万6千回、2位は



江原道の2千236万2千回だった。

旅行を泊りと日帰りで分けた場合は、日帰り旅行の回数では京畿道が4千625万9千回で圧倒的な1位を記録した。2位の慶尚北道の1千507万8千回の約3倍に達する規模である。泊り旅行回数では京畿道が714万2千回で全国7位と集計された。韓国1位は江原道で1千587万5千回だった。

韓国人の旅行先別1人平均国内旅行回数も京畿道が1.17回と韓国で最も高かった。これは韓国国内を旅行する場合、平均的に一度は京畿道を訪問するという意味だと京畿道の関係者は説明した。2位は江原道の0.56回だった。

観光客の訪問が地域経済に及ぼす影響を示す「1人当たり平均支出額」の場合、京畿道は6万6千ウォンで全国3位だった。1位は済州道の11万5千ウォン、2位は江原道の7万4千ウォンだった。

今回の調査は韓国文化観光研究院が昨年1年間、満15歳以上の国民の総5万400人を毎月面接調査し、その結果を標本にして全国民数値を計算する方式で行われた。



京畿道は新型コロナウイルス感染症で国内旅行が増え、観光地として京畿道が持つ多様な魅力が国内観光客の興味を得たと分析した。京畿道は水原華城、楊平トゥムルモリ、坡州臨津閣(DMZ)など伝統的

な観光地だけでなく圏域別の生態観光拠点、京畿ドウルレ道(森の道)の開通、京畿海の活性化政策など観光客を招くために努力を傾けてきた。また、体が不自由な人が観光に不便を感じないように道内の主要観光地にバリアフリー観光施設を拡充する一方、観光先での消費が地域経済の活性化につながるよう京畿住民が観光政策に参加する公正観光環境づくりも進めている。

京畿道はウィズコロナ政策への転換による観光需要の増加に合わせて旅行業界と協業体系を構築し、外国人観光客の誘致にも積極的に対応する予定だ。

チェ・ヨンフン京畿道観光課長は「京畿ドウルレ道(森の道)、京畿海など、京畿道だけの新しい観光名所を増やす一方、癒しとヒーリング、自然、安全な旅行などを楽しむようコンテンツ、イベント、観光情報をさらに充実させていきたい」と話した。



# 京畿道、経済・環境をともに再生する「大気汚染最適防止施設技術発表会」を開催

2022年、「京畿道大気汚染最適防止施設技術発表会」の開催により、  
高効率で最適化された大気汚染防止施設の発掘・拡散…  
京畿道が抱えている悩みや環境的問題を解決

－ 8(アスコン5、染色2、印刷1)の新技术の発表と専門家との質疑応答が行われる

京畿道は26日、最新の大気汚染防止施設の発掘と拡散のために「2022年大気汚染最適防止施設技術発表会」を2回にわたって開催することを明らかにした。

「大気汚染最適防止施設技術発表会」はアスコンなど高濃度の汚染物質排出事業場に対する苦情が持続的に増加したことによるもので、現在適用可能な新工法や最新技術を備えた大気汚染防止施設の発掘と拡散のために開かれた。



京畿道は25日、アスコン・染色・印刷など4社の技術発表会を京畿道の公式ユーチューブチャンネルで生中継し、30日の午後1時には4社を紹介する内容を生中継する予定だ。ユーチューブで「京畿道庁」または「京畿道大気汚染最適防止施設技術発表会」を検索すれば視聴できる。

これに先立って、京畿道は環境関連の専門家による2回にわたる諮問会議を通じて技術発表会を設け、30日間にわたって公開募集をした。公開募集に参加した企業の公正性と客観性確保のために公務員の入会下の大気汚染度自己測定成績書を補完し、8社が最終的に技術発表会に参加することになった。

今回の技術発表会では参加企業の発表と環境関連専門家の質疑応答で大気汚染防止施設の新工法と最新技術の長所・短所が確認できる。京畿道はこれを通じて環境産業のさらなる発展、大気汚染排出事業場の新しい技術導入による汚染物質排出を低減し、排出事業場に対する道民の否定的な認識を変える契機になると期待している。

キム・サン Chol 京畿道環境安全管理課長は「過去の技術に限られた大気汚染防止施設は汚染物質排出の低減に限界がある」とし、「今回の技術発表会を通じて一層発展した新技術が現場に適用され大気汚染物質の削減と大気質の改善に役に立ってほしい」と述べた。

# 「カーボンニュートラル 京畿道」に向けた一歩、 3日間の「2022 エコフェア코리아」が閉幕

京畿環境産業展、京畿道炭素共感、クリーンエア国際フォーラム、  
京畿環境安全フォーラムを共同開催

カーボンニュートラル共同宣言、350の技術展示・参加ブースの運営、  
国際フォーラムの運営など

持続可能な未来を模索する環境総合展示会である「2022エコフェア코리아(ECO FAIR KOREA 2022)」が7日に幕を閉じた。

5日~7日まで3日間、水原コンベンションセンターで開かれたエコフェア코리아は「持続可能な未来、カーボンニュートラル 京畿道」をテーマに▲京畿環境産業展▲京畿道炭素共感▲クリーンエア国際フォーラム▲京畿環境安全フォーラムを共同開催し、環境分野の総合行事で行われた。

「京畿環境産業展」では280か所のブースで120の会社の環境技術が展示され、韓国標準協会などが参加した6件の環境技術の認証・検証に関する説明会が開催された。韓国環境公団で開催した事業発注説明会など他機関の関連行事も行われた。特に京畿道の市郡と公共機関をバイヤーとして招いた購買相談会では公共機関からのバイヤー90人、72の企業が参加し、総188件の相談が行われた。



「カーボンニュートラル 京畿道」は53の機関、70か所のブースが参加し、地方レベルのカーボンニュートラル共感帯づくりのきっかけになった。京畿道と市郡、道議会が共同協力の意志を固める「カーボンニュートラル宣言式」を皮切りに、京畿道民がカーボンニュートラルの実践を宣言する「カーボンニュートラル道民推進団発足式」も続いた。

東アジア各国の政府関係者および専門家らと共に韓中日共同協力のための地方政府の役割を議論する

「カーボンニュートラル国際フォーラム」、大気・気候・エネルギー分野のアイデア発掘を通じて気候危機問題認識と共感を形成する「カーボンニュートラルアイデアコンテスト」も開かれた。コンテストには計54チームが参加し、事前に行われた書類審査を通じて8チームが決選に進出し、大賞には「気候の王」チームの「賃貸建物でのエネルギー使用量表示キャンペーン」というアイデア提案書が選定された。京畿道と京畿環境エネルギー振興院は大賞受賞作を政策に反映することを積極的に検討する計画だ。



京畿道と国連環境計画(UNEP)が共同主催した「クリーンエア国際フォーラム」にはモンゴルの環境観光部のトゥベンドールズ・ガントウム次官、モルディブの環境気候変化技術部のアブドラ・ナシオ政務長官をはじめとする16ヶ国の環境専門家、国際機構、アジア太平洋6ヶ国の政府、学界関係者まで約750人が3日間にわたりオン・オフラインで参加した。6つのセッションと3つの付帯行事で

構成された今回のフォーラムを通じて、クリーンエアのための多様な政策、技術、研究結果を発表し、各国と地域の現況を共有した。

5日に開催された「京畿環境安全フォーラム」には環境産業分野の専門家と産業の関係者など約250人が参加した。今回のフォーラムでは京畿道の小規模事業場を支援する事業の発展方案模索と環境サービスの活性化方策および優秀事例が発表された。小規模の事業場に対する効率的な支援方法導出と環境サービス業者の活性化に寄与するものと評価された。

オム・ジンソプ京畿道環境局長は「環境に対する多くの道民の関心と参加の中で行事を成功的に開催することができた」とし、「持続可能な発展のためにカーボンニュートラル実践方案など、京畿道の役割は何かについて引き続き考えていく」と述べた。

# キム・ドンヨン道知事、「青年により多くの機会とより均等な機会を作ってあげる、、、毎月青年たちと会って話し合う」

## 第2期 京畿道青年参加機構の発隊式開催

### 京畿道、17日に第2期京畿道青年参加機構の発隊式を開催

– キムドンヨン京畿道道知事、青年参加機構の青年委員の政策提案を直接聴取し、励まし

参加機構を公募した結果、569名が応募し、2.6対1の競争率を記録、抽選で選抜9月17日から1年間の活動で青年政策を提案し、既存政策を補完する役割に期待



キム・ドンヨン京畿道道知事が17日、青年の日(9月の第3土曜日)を迎え、青年たちに「より多くの機会、より均等な機会」を作るとし、そのために青年たちと定期的に会うことを約束した。

キム・ドンヨン知事はこの日、京畿道庁で開催された「第2期京畿道青年参加機構発隊式」に参加し「青年たちに必要なのは予算の支援を通じた短期的の物質的な支援ではなく、機会である」

とし、「働く機会、勉強する機会、事業する機会、恋愛する機会など、より多くの機会とより均等な機会を通じて包容と共生の共同体を作っていく」と述べた。

そしてキム知事は、既成世代や既得権の枠を破り、青年たちが声を出せるように2つを約束した。

キム知事は「青年たちが想像力と勇気を持って枠を破る努力をするようお願いし、それに合わせて京畿道から先に仕事をする方式を変える」と強調した。

二番目の約束として、キム知事は「少なくとも月に一日を決めて青年たちと会う時間を設ける。京畿道北部の青年と会えるなら私が北部に行く」とし、「定期的に青年たちと話し合いながら青年たちが道知事に話したがる話を聞くつもり」と述べた。



京畿道青年参加機構は京畿道東・西・南・北の圏域別に計215人の青年(満19~39歳)が参加し、青年政策を直接作って提案する青年政策参加機構だ。彼らは住居、雇用、安全など政策需要が高い分野と自由に意見を述べられる自律分野政策を発掘し提案する形式で1年間活動する。

これに先立ち、京畿道は昨年、第1期青年参加機構が提案した政策のうち、事業部署の検討と熟議討論を経て最終的に4つの事業を政策化した。住民参加予算の手続きに沿って審議などを経て、実際の政策として執行できる。

4つの事業とは▲京畿道に住む青年単身世帯へのプレゼントボックス(単身世帯の生活必需品と青年政策の広報物を提供)▲京畿人生ガイドブック(生活に必要な基本知識と青年政策をガイドブックの形態で製作・配布)▲青年向けメンタルヘルスヒーリングプログラム(音楽、美術、体育など活動支援, 地域内の専門心理相談機関連携)▲青年は夜明けからカチカチ(青年労働者向け心理治療プログラム)だ。この日、第1期青年参加機構青年委員として政策を提案した青年たちがキム・ドンヨン知事の前で政策を発表した。

キム知事は発隊式で第2期京畿道青年参加機構の青年委員らに委嘱状を渡した後、青年たちの政策提案を聞いて励ました。

一方、6月に進行された第2期京畿道青年参加機構の青年委員は公募結果、計569人が応募し2.6対1の競争率を記録した。道は青年たちの自己紹介と活動への抱負などの基準で1次検証後、青年政策関心が認証された青年たちの中から抽選で最終選抜した。

# 「2022スマートモビリティ物流産業展」で 京畿道の自動運転車「ゼロシャトル」を披露

京畿道自動運転センターや入居企業の成果の広報、販路開拓を支援するため、韓国初のスマート道路交通・物流産業専門展示会「2022スマートモビリティ物流産業展」に参加

韓国初製作の公共自動運転車「ゼロシャトル」の紹介と板橋自動運転実証団地の運営成果を発表

京畿道は12日から14日までソウルCOEXで開かれる「2022スマートモビリティ物流産業展(Smart Trans LogistiX)」に京畿道自動運転センターとセンター内入居企業5社が参加すると12日発表した。



COEXと韓国道路協会が共同主催する韓国初のスマート道路交通・物流産業専門展示会である「2022スマートモビリティ物流産業展」は京畿道自動運転センター、韓国鉄道技術研究院、アマゾンウェブサービス 코리아 など道路交通とモビリティ関連主要企業・政府機関111社が参加する。自動運転、スマート物流、デジタル道路などのモビリティ、物流産業の革新技術とソリューションを全部観覧できる。

京畿道は京畿道自動運転センター館を通じて道内企業と協力して自主製作した国内初のレベル4水準の公共自動運転車である「ゼロシャトル」を紹介する。13日には「スマートモビリティ&スマート物流革新

戦略カンファレンス」で板橋自動運転実証団地の事業成果と自動運転モデル運行地区の運営など京畿道自動運転センターを通じて2016年から集中してきた自動運転について発表する。

また、自動運転新芽企業が直面する成果拡散と販路開拓などの悩みを解決するために、これまで持続的に支援してきたセンター内入居企業(株)トリーズエンジニアリング、ディスイズエンジニアリング、(株)ウェイティーズ、(株)ヒルズエンジニアリング、(株)ディバインテクノロジーも紹介する予定だ。



京畿道のキム・ギュシク未来成長政策官は「京畿道自動運転センター内の入居企業がセンターの持続的な支援と協業を通じて自動運転の中核技術の開発と保有技術の高度化を推進し、海外投資誘致と道民を対象にした自動運転サービスなどの成果を得られるよう引き続き努力する」と述べた。